



# 「SAT通信」 NO3

教職支援センター「より良いSAT活動研究会」

令和6年10月9日発行

学生みなさん、こんにちは。

今年の夏も大変な暑さでしたが、元気に楽しく過ごすことができたでしょうか。

さて、後期のSAT活動が始まりました。前回通信No2では、SATファイルの活動記録の書き方についてお話ししましたが、後期のSAT活動開始にあたり、もう一度「活動の反省」欄の記述について自分のファイルを開いて確認してください。

## 「活動の反省」(SAT通信No2より)

この欄は感想を書くのではなく、どのような「気づき(学び)」があったかを書くようにしましょう。「気づき(学び)」はみなさんの成長の証です。「気づきの量」＝「成長の量」と捉えると、さらに充実した振り返りができるようになるでしょう。

SAT活動はPDCAサイクルです。

(P)目標設定 → (D)実践する → (C)振り返り(気づき) → (A)次に活かす

## <前期SAT活動の様子>

6～7月に、教職支援センターの職員でSAT活動校全11校を訪問しました。そのときのみなさんの様子について少しお話ししたいと思います。

個別支援の際に「しゃがんで子ども目線で支援する姿」が多く見られ、中には「床に膝を着いて支援している姿」もあってとても嬉しく思いました。

「子どもの表情が見える位置に移動している姿」「積極的に声をかけている姿」「全体を見ながらさりげなく対象児童を観察している姿」「先生ではなく常に子どもに目が向いている姿」「先生と重ならないように対角線の位置をとっている姿」「先生から進んで荷物を受け取って運んでいる姿」「長休みに子どもと手をつないで校庭に走っていく姿」など、みなさんの一生懸命な姿がたくさんありました。

SAT活動に対する意識はそれぞれですが、みなさんの姿から「子どものために」という気持ちは、同じように伝わってきました。そして、みなさんに向けて見せる子どもたちの笑顔からも「SATは子どものためにあるんだなあ」と感じられるものでした。



## <考えてみよう！SAT活動エピソード>

### <こんな時どうしますか>

授業中、集中できない子どもがいたら、どうしたらよいと思いますか。

### <アドバイス>

そばに寄って、顔を見ながら「困っていることある？」などと声かけをします。声かけで落ち着く子もいます。そうでない子は表情を見逃さないようにしましょう。そして、表情から読み取った内面を想像しながら「一緒に勉強しようか」「いつでも聞いてね」などと続けてみてください。上手いかななくても気にする必要はありません。大事なことは「気になる子を放っておかない」ということです。その子が「自分のことを気にかけてくれているんだ」と思えたらよしとしましょう。

でも、しつこくするのは逆効果です。

